

## 会議記録(概要)

会議名	令7年度第1回三田市立図書館運営評価委員会
日時	令和7年10月30日(木) 18時から19時30分
場所	三田市立図書館本館2階コミュニティホール
出席委員	笹倉委員長、尾上副委員長、矢野委員、小山委員、佐藤委員、千坂委員
指定管理者	図書館流通センター関西支社 余田、鈴木 市川館長、橋上分館長
事務局	市民生活部長 横溝、市民生活部次長 榎本 文化スポーツ課長 畑、副課長 西、主任 山本
傍聴者	0人
添付資料	次第、資料1~2

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ 市民生活部長あいさつ

#### 3 報告事項

##### (1) 令和6年度事業報告

事務局より資料1に基づき説明、

質問事項及び回答

委員 評価が概ね良い中で一部が3になっている項目について意見が出ているが、これは、図書館の運営側にもシェアされて改善の策は何かなされているのか。

事務局 評価いただいた内容はすぐに指定管理者とも共有させていたっている。すぐに対応できる部分とそうでない部分がある。例えば電子図書館のコンテンツについては、すぐに増やすことは難しい状況だが、広報については、動画を作成して図書館が身近なものだと感覚的に分かっていたりするようなアピールをしていきたい。

委員 レスポンスの良さを感じているところで、改善されているところが多くあり、全般的に3があるのはなぜかなと感じる部分がある。

委員 外国人の読書活動について、外国人は三田市に少ないのか。漢字が読めないこともあり、案内表示に英語を入れるなどすぐに改善できることもあるのではと思う。英語の本も少なく、いつ行っても同じ本がある。

指定管理者 外国人の利用が少なく、あまり策を講じられていないので利用しにくくなっている状況ではと考える。看板表示、少なくとも英語の表記は必要かと考える。

委員長 ホームページなどで外国人向けの対応はしているか。

指定管理者 していない

- 委員  
事務局 市役所では、案内表示の対応をしておりわかりやすい。  
外国人の数はこの2～3年で増えており、これまで1,200人から1,600人に増えている。特にアジア圏の方が多く、指定管理者とも情報共有していきたい。
- 委員 インドネシアの方が増えています。英語ができなくても、アルファベットは読めるので、サインはそのあたりを対応してはどうか。
- 委員 神戸市中央区では外国人が10%を超えているが、三田市は1.5%程度だがよくお見かけするようになった。学校にも多いのではないか。
- 委員 外国籍の子供は学校でも増えてきている。増えてからの対応というよりも、トレンドがはっきりしているので、前もって小さな声が出た時に早めの対応が大事だと思う。
- 委員 例えば、豊岡では障害者サービス、芦屋は児童サービスなど、その図書館ごとに特化したサービスがあるが、どの分野でも対応できる対策を考えておくべきだと思う。
- 委員 調査相談室を利用して昭和30年の新聞記事を見ることができた。そういったサービスがあることやおすすめの利用方法を広報していくとよいのではないか。  
また、高齢者向けに汚れにくい、傷みにくい絵本などがあればよいのでは。高齢者の対策は具体的にあるか。
- 事務局 大きな字の大活字本、小説と朗読で聞けるCDの貸出や、移動図書館で福祉施設を訪問するといったサービスがある。他に、例えば、回想法など昭和の写真集等を見て昔を思い出してお話されたりといった活用もある。
- 指定管理者 高齢の方の利用が多いので、移動図書館では写真を中心にしたものをそろえるなど利用者にあわせた選定をしている。
- 委員 図書館まで出かけられない方に対してアウトリーチサービスがあるのは意義深いと思う。  
広報活動について、ホームページやSNS等を活用する一方で、紙の図書館だよりは多岐にわたりたくさんの情報が掲載されている。広報においてターゲットの設定が重要になると思うが、どのような媒体でどのようにターゲットを設定して広報されているか。
- 指定管理者 図書館だよりは来館いただいた方への配布が中心。SNSも活用しているが、図書館を利用されていない人にどのようにアピールするかが重要と考えるが、具体的に手が打てていないのが正直なところ。図書館での配布の他、市内の公共施設、郵便局での配布している。毎月3,000部程度である。
- 委員 PRには、広報紙のように関心のある人が見に行くものと、広く

告知する広報がある。テレビのコマーシャルは告知効果をねらったものである。一般の人が目にふれるところにどのようなものがだせるか。郵便局等に置いていただいているが、高校生中学生が行くところが、学校ぐらいしかなく、例えばコンビニにおいでしてもらうなど発想の転換をするのも大事と思う。

委員長

どうやって登録率を高めるかは他の市でも課題になっている。図書館友の会、図書館応援隊など、ボランティア組織にも協力いただいでシステムの的に図書館の活動を広げることを考えられないか。

## (2) 令和7年度事業計画及び上半期の実施状況報告

指定管理者より、資料2に基づき説明

前回委員会でのご提案内容についての取組は下記のとおり。

- ・マイナンバーカードの取り忘れ防止のため、センサーの設置方法を変更。
- ・館内の資料検索機のイベントカレンダーが活用されていない件については、システムの状況もありイベント情報の入力がおいつかないため、休館日カレンダーとして活用することとした。

委員

登録率を上げることが重要。スマホに流れていくということがあるなかで、知と憩いの拠点を目指すなかで、これからは単なる本の貸し借りだけでなく、新規の来館者を増やすイベントの開催も重要になってくる。イベント開催にはマンパワーが必要になるのでボランティア団体の協力を得られればよいと思うが、三田の図書館のボランティアの状況はどうか。

事務局

読み聞かせボランティアのかたつむり、プーの会、ストーリーテリングの三田おはなしを語る会、紙芝居サークルおもちゃ箱、点訳ボランティアのどんぐり、音訳ボランティアのともしび、つむぎの会等にご協力いただいている。個人では、修理ボランティア、配架ボランティアにお世話になっている。ブックフェスタは数年前よりボランティアさんの力をお借りして実施しているもので、このコミュニティホールいっぱい本を広げ読み聞かせも行うなど盛況なイベントになっている。

委員

視覚障害の方への支援サービス等は三田の図書館での魅力になっていると思う。ボランティアさんの力を生かしながら図書館の魅力づくりをしていければ良いと思う。

委員

日本では図書館管は本を貸すところというイメージが強いが、例えばイギリスの図書館ではハローワーク機能を備えている。アメリカでは図書館で結婚式ができるところがある。図書館というものをもっと柔軟に考えて茨木市の図書館では名画（複製）貸し出し、枚方市では、ツタヤ、スターバックスと提携して喫茶店を併設など変わ

ってきている。もっと柔軟に考えて、三田の図書館に行けばあれがあるというような特色のあることができれば、登録率向上にもつながるのではないか。

委員 6 つある取組目標は市が設定したものか。目標については、数値目標があった方がよいのではないか。

事務局 取組目標は指定管理者の公募時に市で決めている。登録率は30%を切っている状況なので、まずは30%にのせることを目標にしたいと思っている。おっしゃるとおりどのように実現するのか具体的に落とし込む必要があると考える。

委員 仕事柄マイナンバーカードに触れる機会が多いが、去年、一昨年ととても流通している印象があり、マイナンバーカードの利用を含めて広報活動をすればよいのではないか。

委員 委員長のお話を聞いていると複合的な施設が併存しているからこそ楽しみ方が増えるという部分があるかと思う。三田市の図書館は単独施設であるが、他の施設、団体とのコラボレーションにより、複合的な要素を取り入れれば活性化につながり登録率があがるのではないか。

委員 この委員会ででた意見は反映していただけるのか。

事務局 委員会ででた意見は、すぐに実現できるものとそうでないものがあるが、指定管理者と反映できるよう検討させていただく。

委員長 図書館の命は課題解決のためのレファレンスである。レファレンスにより人が変わり町が変わると言われる。特に事実検索はマンパワーがいる。委員を務めた他の市で、レファレンスの件数をとっていなかったのでは件数を把握するとともに、どんなレファレンスがあったか公表するようにしてもらった。三田市ではレファレンスの事例は館内で共有しているか。そういったことが司書の育成にもつながる。

指定管理者 レファレンス事例はまとめ共有しているが、中身の検討まではしていない。高度な問合せは少ないのが実情。

委員 そこまで調べてくれることを住民が知らないからだと思う。それもPRが大事。図書館でいかに問題解決できるということも広報してほしい。

委員 民間施設とのコラボは敷居が高いかもしれないが、市の他の公共施設とのコラボレーションができれば、それぞれの利用者があるので利用者が増えるのではと思う。

委員 甲府市の図書館は、月に何回か子育て支援センターから育児の相談員に来てもらっている。

指定管理者 有馬富士公園への出張を春と秋に実施したが、あいにく両日、雨が降ってしまった。

委員 移動図書館を土日祝など人が多いときに実施すれば利用者がふえる

のではないか。

委員 キッピーモールの市民活動プラザに頼めば、三田駅、新三田駅にポスターを貼ってもらえるサービスがあるので、図書館でもイベント毎に活用してはどうか。

委員 栃木県の図書館では、農家から地域の特産品を考えたいと図書館のレファレンスで相談があり、図書館で調べて、詳しい講師を呼んで講演会を開催し、みんなで海外のものも含めて検討し、新しい特産物を作った。ホームページで発信して、図書館の前で朝市を開き全国的に町を紹介したといった事例があった。関連の図書も追加で購入して資料も充実したとのこと。図書館が町を変えるという好事例として日本図書館協会から紹介されていた。

委員 レファレンスサービスについて、自分の好みにあったおすすめの小説や虫の名前なども聞いていいのか。周りに聞いてもレファレンスを知っている人はいない。

委員長 何でも聞いてよい。図書館にもよるが以前いた図書館では人文や自然科学、社会科学にわかれて専門の司書がいた。市町村立図書館では分野は分かれていないと思う。

委員 海外との交流について調べていた時にレファレンスサービスを利用した。きちっと調べて市外の図書館からも資料を取り寄せてもらったことがある。そこまで深く調べてもらえることを広報すべきと思う。

指定管理者 神戸の図書館での話になるが、須磨寺の近くで商売をされていた方から震災で写真を全て失ったので店の写真がのった資料はないかという相談があった。調べると雑誌等に広告を出されていたりしたので少しではあるが資料が見つかり提供したところ、喜んでいただいたことがあった。

委員 そういったサービスを図書館がするという事を知らない方のほうが多いと思う。

#### 4 令和7年度委員モニタリング実施について

事務局より説明

- ・本年度もモニタリングシートの提出をお願いします。
- ・来年の2月か3月に開催する第2回の運営評価委員会での報告を受け、評価表をご提出ください。
- ・令和8年3月末までにご提出にご協力をお願いします。
- ・採点は、各項目にそって5点満点で評価。
- ・特に3点以外を付けられた場合は、コメント欄にその理由をお書きください。
- ・提出いただいた結果を取りまとめ、令和7年度の図書館の評価に反映させていただきます。

委員長 評価を10段階で付けてはどうかと事務局に要望した。同じ4でも4より下の4と4より上の4があり、10段階ならばもっと評価しやすくなる。

事務局 委員長からご意見をいただいたところだが、市の指定管理者の評価が5段階で統一されており、5段階でお願いしたい。

委員長 予定されていた事項は以上になるので、進行を事務局にお返りする。

事務局 第2回の運営評価委員会については2月か3月を予定しており、後日、担当より日程調整をさせていただく。